



## CHAPTER 7

# SCE 1000 プラットフォームの基本操作

---

## 概要

この章では、SCE 1000 プラットフォームを起動、リポート、およびシャットダウンする方法について説明します。また、設定の管理方法についても説明します。

- 「SCE 1000 プラットフォームの起動」 (P.7-1)
- 「SCE 1000 設定の管理」 (P.7-4)
- 「SCE プラットフォームのバージョン情報の表示方法」 (P.7-8)
- 「SCE プラットフォームのコンポーネントの表示方法」 (P.7-9)
- 「システム アップタイムの表示方法」 (P.7-9)
- 「SCE プラットフォームのリポートとシャットダウン」 (P.7-10)

## SCE 1000 プラットフォームの起動

ここでは、SCE 1000 プラットフォームの起動手順について説明します。

- 「システム起動前の確認」 (P.7-2)
- 「複雑な設定作業の実行」 (P.7-2)
- 「システムの起動および初期状態の確認」 (P.7-2)
- 「最終テスト」 (P.7-3)

## システム起動前の確認

SCE 1000 プラットフォームを起動する前に、次の条件を確認してください。

- 両方の電源装置が搭載され、接続されていること
- インストール時の初回起動：
  - SCE 1000 プラットフォームがローカル コンソール（CON ポート）に接続されていること
  - コンソール端末の電源がオンになっていて、適切に設定されていること
- 2 回目以降の起動：
  - ラインおよびカスケード インターフェイスが適切にケーブル接続されていること（任意）
  - SCE 1000 プラットフォームが、次のタイプの管理ステーションのうち少なくとも 1 つに接続されていること：
    - ローカル コンソール（CON ポート）：直接接続
    - リモート管理ステーション：LAN（MNG ポート）接続

## 複雑な設定作業の実行

SCE 1000 プラットフォーム ハードウェアの取り付け、すべての外部接続のチェック、システム電源の投入、システムの起動、および初期システム設定を行ったあと、このマニュアルに記載されていない複雑な設定作業を行わなければならない場合があります。

システムおよびインターフェイス設定の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 『[Cisco SCE 2000 and SCE 1000 Software Configuration Guide](#)』
- 『[Cisco SCE 2000 and SCE 1000 CLI Command Reference](#)』

## システムの起動および初期状態の確認

SCE 1000 プラットフォームを設置してケーブルを接続したら、次の手順を実行して SCE 1000 プラットフォームを起動します。

- 
- ステップ 1** 電源コードが SCE 1000 プラットフォームに接続されていることを確認します。
  - ステップ 2** AC 電源装置のケーブルを AC 電源に差し込むか、または DC パネルの回路ブレーカーをオンの位置に設定します。両方の電源スイッチをオンにします。
  - ステップ 3** ファンの音を聞きます。作動音がすぐに聞こえるはずですが。
  - ステップ 4** 起動プロセス中に、次の LED を確認します。
    - 両方の POWER LED がグリーンに点灯します。
    - SCE 1000 でバイパスが有効の場合、BYPASS LED がグリーンに点灯します。バイパスが無効の場合は消灯します。
    - 起動中は、STATUS LED がオレンジに点灯します。起動に成功すると、STATUS LED がグリーンに点滅します。



**(注)** SCE 1000 の起動には数分間かかります（STATUS LED がオレンジから、オレンジの点滅またはグリーンの点滅に変わるまで）。

- ステップ 5** 初期化プロセスを確認します。システム起動が完了すると、コンソール画面に次のようなスクリプトおよびシステム バナーが表示されます。

```
Cisco Internetwork Operating System Software
IOS (tm) 7300 Software (C7300-JS-M), Version 12.1(9), CISCO RELEASED VERSION
Copyright (c) 1986-2006 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Tue 17-MAY-06 01:51 by biff
Image text-base:0x40008970, data-base:0x40BF8000
```

- ステップ 6** SCE 1000 プラットフォームを最初に起動した場合、セットアップ ウィザードが自動的に開始し、初回システム設定のための設定情報を求めるプロンプトが表示されます。コンソール端末にシステム バナーおよびハードウェア コンフィギュレーションが表示されたあとに、システム コンフィギュレーション ダイアログ プロンプトが表示されます。

セットアップ ウィザードを使用して、システムの設定を続けることができます。また、セットアップを終了し、コンフィギュレーション コマンドを使用して、グローバル（システム全体の）パラメータおよびインターフェイス固有のパラメータを設定することもできます。インターフェイスをただちに設定する必要はありません。

## 次の作業

起動手順の各ステップを完了できない場合は、第 8 章「トラブルシューティング」に進んで、トラブルシューティングの推奨事項および手順を参照してください。

## 最終テスト

ここでは、SCE 1000 が適切に機能しているかどうかを確認する最終テストの実行手順について説明します。

- 「動作ステータスの確認方法」(P.7-3)
- 「ユーザ ログ カウンタの表示方法」(P.7-4)

### 動作ステータスの確認方法

すべてのポートを接続したら、SCE 1000 が警告状態でないことを確認します。

- ステップ 1** SCE 1000 の前面パネルで、STATUS LED がグリーンに点滅していることを確認します。
- ステップ 2** システムの動作ステータスを表示するには、SCE 1000# プロンプトで show system operation-status を入力し、Enter キーを押します。

システムの動作ステータスを示すメッセージが表示されます。システムが適切に動作している場合は、次のメッセージが表示されます。

```
System Operation status is Operational.
```

### 動作ステータスの確認の例

次に、LED がレッドまたはオレンジに点灯する場合の出力例を示します。

```
SCE 1000#show system operation-status
System Operation status is Operational
```

## ユーザ ログ カウンタの表示方法

ユーザ ログを表示して、インストレーション プロセス中に発生したエラーの有無を確認するようにしてください。

**ステップ 1** SCE 1000# プロンプトで `show logger device User-File-Log counters` と入力し、Enter キーを押します。

### ユーザ ログ カウンタの表示の例

次に、現在の User-File-Log のデバイス カウンタを表示する例を示します。

```
SCE 1000#show logger device user-file-log counters
Logger device User-File-Log counters:
Total info messages: 1
Total warning messages: 0
Total error messages: 0
Total fatal messages: 0
```

「Total error messages」または「Total fatal messages」がカウントされている場合、**show logger device User-File-Log** コマンドを使用してエラーの詳細を表示します。

## SCE 1000 設定の管理

ここでは、SCE 1000 設定の管理手順について説明します。

- 「[コンフィギュレーションの表示](#)」 (P.7-4)
- 「[コンフィギュレーションの保存と変更の方法](#)」 (P.7-5)
- 「[以前のコンフィギュレーションの復元方法](#)」 (P.7-7)

## コンフィギュレーションの表示

コンフィギュレーション コマンドを入力すると、そのコマンドはただちに SCE プラットフォームの動作およびコンフィギュレーションに影響します。この実行コンフィギュレーション（別名 `running-config`）は、SCE プラットフォームの揮発性メモリに保存され、SCE プラットフォームが稼動している間有効です。リブートすると、SCE プラットフォームは、ユーザが保存したデフォルト以外のコンフィギュレーションを含む `startup-config` を、`running-config` にロードします。

SCE プラットフォームには、次の操作を行うコマンドがあります。

- 実行コンフィギュレーションの表示
- スタートアップ コンフィギュレーションの表示

SCE プラットフォームを設定したあとに、`show running-config` コマンドを使用して実行コンフィギュレーションを問い合わせることができます。このコマンドにより、デフォルト以外の実行コンフィギュレーションが表示されます。デフォルトであるかどうかに関わらず、SCE プラットフォームのすべての実行コンフィギュレーションを表示するには、`show running-config` コマンドでオプション `all-data` を指定します。

**ステップ 1** SCE 1000# プロンプトで `show running-config` を入力します。

実行コンフィギュレーションが表示されます。

```
SCE 1000#show running-config#
This is a general configuration file (running-config).
#Created on 15:50:56 CET MON December 11 2005
#cli-type 1
#version 1
clock timezone CET 1
snmp-server community "public" ro
snmp-server host 10.1.1.253 traps version 1 "public"
interface LineCard 0
connection-mode active
no silent
no shutdown
flow-aging default-timeout UDP 60
interface FastEthernet 0/0
ip address 10.1.5.109 255.255.0.0
interface FastEthernet 0/1
interface FastEthernet 0/2
exit
line vty 0 4
no timeout
exit
SCE 1000#
```

## コンフィギュレーションの保存と変更の方法

現在の実行コンフィギュレーションを変更し、システム再起動後もこれらの変更を維持する場合は、管理セッションを終了する前に変更を保存する必要があります。つまり、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存する必要があります。

SCE プラットフォームには、コンフィギュレーションおよび管理のためのインターフェイスが複数用意されています。すべてのインターフェイスで SCE プラットフォームの同じデータベースへの API が提供され、1つのインターフェイスを使用して行った設定は、すべてのインターフェイスに反映されます。さらに、任意の管理インターフェイスで実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションに保存すると、コンフィギュレーションに使用された管理インターフェイスに関係なく、すべてのコンフィギュレーションが保存されます。

バックアップ用に、古い `startup-config` ファイルが `tffs0:system/prevconf` ディレクトリに保存されます。前のコンフィギュレーションを回復する方法については、「[以前のコンフィギュレーションの復元方法](#)」(P.7-7) を参照してください。

`running-config` からコンフィギュレーション コマンドを削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

- 
- ステップ 1** SCE 1000# プロンプトで `show running-config` を入力して、実行コンフィギュレーションを表示します。
- 実行コンフィギュレーションが表示されます。
- ステップ 2** 表示されたコンフィギュレーションが適切に設定されているかを確認します。設定が適切でない場合は、設定を変更してから保存します。
- ステップ 3** `copy running-config startup-config` を入力します。
- すべての実行コンフィギュレーション情報がコンフィギュレーション ファイルに保存され、システム リブート時に使用されます。
- コンフィギュレーション ファイルには、`tffs0:system` ディレクトリ内の `config.txt` ファイルに格納されたシステム デフォルトと異なる情報がすべて保持されています。
- 

## コンフィギュレーションの保存と変更の例

### 例 1

次に、実行コンフィギュレーション ファイルの例を示します。

```
SCE 1000#show running-config#
This is a general configuration file (running-config).
#Created on 15:50:56 CET MON February 11 2006
#cli-type 1
#version 1
clock timezone CET 1
snmp-server community "public" ro
snmp-server host 10.1.1.253 traps version 1 "public"
interface LineCard 0
connection-mode active
no silent
no shutdown
flow-aging default-timeout UDP 60
interface FastEthernet 0/0
ip address 10.1.5.109 255.255.0.0
interface FastEthernet 0/1
interface FastEthernet 0/2
exit
line vty 0 4
no timeout
exit
SCE 1000#
SCE 1000#copy running-config startup-config
Writing general configuration file to temporary location...
Backing-up general configuration file...
Copy temporary file to final location...
SCE 1000#
```

### 例 2

次に、実行コンフィギュレーションからすべての DNS 設定を削除する例を示します。

```
SCE 1000(config)#no ip name-serverSCE 1000(config)#
```

## 以前のコンフィギュレーションの復元方法

新しいコンフィギュレーションを保存すると、古いコンフィギュレーションはディレクトリ `tffs0:system/prevconf/` に自動的にバックアップされます。スタートアップ コンフィギュレーション ファイルは、最大 9 つのバージョンが保存されます。ファイル名は `config.tx1` ~ `config.tx9` で、`config.tx1` が最近保存されたファイルです。

古いスタートアップ コンフィギュレーション ファイルを表示するには、`command line interface (CLI; コマンドライン インターフェイス)` コマンド `more` を使用します。

以前のスタートアップ コンフィギュレーションを復元すると、ファイル名が変更されて、スタートアップ コンフィギュレーション (`config.txt`) ファイルが上書きされます。

- 
- ステップ 1** SCE 1000# プロンプトで `more tffs0:system/prevconf/config.txt` を入力して、コンフィギュレーション ファイルを表示します。
- ファイルに格納されたコンフィギュレーション情報が表示されます。
- ステップ 2** コンフィギュレーション情報を参照して、復元するコンフィギュレーションであるかを確認します。コンフィギュレーション復元コマンドは取り消すことができません。
- ステップ 3** `copy tffs0:system/prevconf/config.tx1 tffs0:system/config.txt` と入力します。
- スタートアップ コンフィギュレーションに `config.tx1` のコンフィギュレーションが設定されます。
- 

## 以前のコンフィギュレーションの復元例

次に、保存されたコンフィギュレーション ファイルを表示、復元して、現在の設定を上書きする例を示します。

```
SCE 1000#more tffs0:system/prevconf/config.tx1#
This is a general configuration file (running-config).
#Created on 19:36:07 UTC THU February 14 2006
#cli-type 1
#version 1
interface LineCard 0
no silent
no shutdown
interface FastEthernet 0/0
ip address 10.1.5.109 255.255.0.0
interface FastEthernet 0/1
interface FastEthernet 0/2
exit
line vty 0 4
exit
SCE 1000#copy tffs0:system/prevconf/config.tx1 tffs0:system/config.txt
SCE 1000#
```

## SCE プラットフォームのバージョン情報の表示方法

SCE プラットフォームに関するグローバルなスタティック情報、たとえばソフトウェア/ハードウェアバージョン、イメージ構築時刻、システム アップタイム、最終的なオープン パッケージ名、および割り当てられた SLI アプリケーションの情報などを表示するには次のコマンドを使用します。

**ステップ 1** SCE 1000# プロンプトで show version を入力し、Enter キーを押します。

## SCE プラットフォームのバージョン情報を表示する例

次に、SCE プラットフォームのバージョン情報を表示する例を示します。

```
SCE 1000#show version
System version: Version 3.0.0 Build 240
Build time: Jan 11 2006, 07:34:47
Software version is: Version 2.5.2 Build 240
Hardware information is:
rx : 0x0075
dp : 0x1808
tx : 0x1708
ff : 0x0077
cls : 0x1721
cpld : 0x0025
Lic : 0x0176
rev : G001
Bootrom : 2.1.0
L2 cache : Samsung 0.5
lic type : MFE
optic mode : MM
Product S/N : CAT093604K3
Product ID : SCE2020-4XGBE-MM
Version ID : V01
Deviation :
Part number : 800-26601-01
Revision : B0
Software revision : G001
LineCard S/N : CAT09370L1Q
Power Supply type : AC
SML Application information is:
Application file: /tffs0/temp.sli
Application name:
Application help:
Original source file: H:¥work¥Emb¥jrt¥V2.5¥sml¥actions¥drop¥drop_basic_anyflow.san
Compilation date: Wed, November 12 2006 at 21:25:21
Compiler version: SANc v2.50 Build 32 gcc_codelets=true built on: Tue September 23 2006
09:51:57 AM.;SME plugin v1.1
Default capacity option used.
Logger status: Enabled
Platform: SCE 1000 - 4xGBE
Management agent interface version: SCE Agent 3.0.5 Build 18
Software package file: ftp://vk:vk@10.1.8.22/P:/EMB/LatestVersion/3.0.5/se1000.pkg
SCE 1000 uptime is 21 minutes, 37 seconds
SCE 1000#
```



## SCE プラットフォームのコンポーネントの表示方法

Unique Device Identification (UDI; 固有デバイス識別情報) は、シスコ製のすべてのプラットフォームでサポートされているベースライン機能です。この機能によりネットワーク管理者は、CLI または Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) を使用して特定のデバイスを追跡することにより、リモートでネットワーク資産を管理できます。ユーザは、次のいずれかを使用してリモート デバイスのインベントリ情報を表示できます。

- エンティティ MIB (『Cisco SCE 2000 and SCE 1000 Software Configuration Guide』を参照)
- CLI の show inventory コマンド

show inventory CLI コマンドは、次の情報を表示します。

- デバイス名
- 説明
- 製品 ID
- バージョン ID
- シリアル番号

---

**ステップ 1** SCE 1000> プロンプトで show inventory を入力し、Enter キーを押します。

---

## SCE プラットフォームのコンポーネントの表示例

次に、SCE プラットフォームのコンポーネント (UDI) を表示する例を示します。

```
SCE 1000>show inventory NAME: "Chassis",
DESCR: "Cisco SCE 2020 Service Control Engine, Multi Mode, 4-port GE"
PID: SCE2020-4XGBE-MM, VID: V01, SN: CAT093604K3
SCE 1000>
```

## システム アップタイムの表示方法

最後にリポートしてからシステムが稼動している時間の長さを表示するには、このコマンドを使用します。

---

**ステップ 1** SCE 1000# プロンプトに show system-uptime を入力して、Enter キーを押します。

---

## システム アップタイムの表示例

次に、SCE プラットフォームのシステム アップタイムを表示する例を示します。

```
SCE 1000#show system-uptime SCE 1000 uptime is 21 minutes, 37 seconds
SCE 1000#
```

# SCE プラットフォームのリブートとシャットダウン

- 「SCE プラットフォームのリブート」 (P.7-10)
- 「SCE プラットフォームのシャットダウン方法」 (P.7-10)

## SCE プラットフォームのリブート

新しいファームウェアをインストールしたあとは、そのファームウェアを有効にするために SCE プラットフォームをリブートする必要があります。そのほかにも SCE プラットフォームのリブートが必要になる場合があります。



(注)

SCE を再起動すると、スタートアップ コンフィギュレーションがロードされ、実行コンフィギュレーションに対する変更がすべて失われます。「[コンフィギュレーションの保存と変更の方法](#)」 (P.7-5) の手順に従い、リロードの前に実行コンフィギュレーションを保存することを推奨します。

**ステップ 1** SCE 1000# プロンプトで reload を入力し、Enter キーを押します。

確認メッセージが表示されます。

**ステップ 2** y を入力してリブート要求を確認し、Enter キーを押します。

## SCE プラットフォームをリブートする例

次に、システムをリブートするコマンドの例を示します。

```
SCE 1000# reload Are you sure? y the system is about to reboot, this will end your CLI session
```

## SCE プラットフォームのシャットダウン方法

電源を切断する前に、SCE プラットフォームをシャットダウンする必要があります。この操作により、SCE プラットフォーム上の不揮発性メモリ デバイスが順番にフラッシュされます。



(注)

SCE プラットフォームを再起動すると、スタートアップ コンフィギュレーションがロードされ、実行コンフィギュレーションに対する変更がすべて失われます。「[コンフィギュレーションの保存と変更の方法](#)」 (P.7-5) の手順に従い、リロードの前に実行コンフィギュレーションを保存することを推奨します。

- 
- ステップ 1** シリアル コンソール ポート（SCE プラットフォームの前面パネルの CON コネクタ、9600 ボー）に接続します。
- SCE 1000# プロンプトが表示されます。
- ステップ 2** reload shutdown を入力します。
- 確認メッセージが表示されます。
- ステップ 3** y を入力してシャットダウン要求を確認し、Enter キーを押します。
- 

## SCE プラットフォームをシャットダウンする例

次に、システムをシャットダウンするコマンドの例を示します。

```
SCE 1000#reload shutdown
You are about to shut down the system.
The only way to resume system operation after this
is to cycle the power off, and then back on.
Continue?
Y
IT IS NOW SAFE TO TURN THE POWER OFF.
```



- (注)** SCE プラットフォームを電源切断状態から回復するには、物理的に電源を切断する（または電源をオフ/オンにする）必要があるため、このコマンドを実行できるのはシリアル CLI コンソールからだけです。この制限により、Telnet セッションからこのコマンドを発行したユーザが、SCE プラットフォームに物理的にアクセスできるようになります。
-

